

課題名 **VUCA の時代におけるへき地小規模小学校の
教員の在り方と可能性**
—東アジアの山村地域の小規模学校の比較を中心に—

研究代表者名 劉 靖 (グローバル共生教育論コース)
研究組織等 陳 栄政 (台湾政治大学教育学院)
康 杏媛 (台湾政治大学教育学院)
王 澤霖 (グローバル共生教育論コース)
熊 賽 (グローバル共生教育論コース)

研究の目的と方法

- 【1】 研究目的：本研究は、東アジアの山村地域の小規模小学校の教員に着目し、当該地域の小規模小学校の教育実践と課題に関する調査を通して、予測不可能な時代におけるへき地小規模小学校の教員の在り方とその可能性を明らかにすることを目的とする。
- 【2】 研究方法：本研究の分析に用いるデータは、日本、台湾、中国を含む東アジアの山村地域の小規模小学校およびこれらの学校の教員に関する資料や報告書および関係者によるインタビュー調査結果である。具体的に、2000 年以降ユネスコや各国の教育省や研究機関に発表された山村地域の小規模小学校に関する資料や報告書を整理し、これらの小規模学校の教員の現状と課題をまとめる。次に、台湾の共同研究者の協力を得て、現地の山村地域の小規模学校の教員を対象にし、聞き取り調査（現地またオンラインで）を行った。異なる国や地域のデータを比較した。

研究経過

(1)2024 年 6 月-10 月:準備段階

2000 年以降発表されたへき地小規模学校に関する政策や報告書や研究論文（特にへき地小規模学校（特に教員に関する内容）を整理し、その現状と課題をまとめる。纏めた結果に基づき、日本、中国および台湾の小規模学校の教員に対する聞き取り調査の質問票などをデザインした。また、インタビュー調査の内容を検討した。

(2)2024 年 10 月-11 月:展開段階 a

現地の台湾政治大学教育学院の協力を得て、台湾の小規模学校の教員および関係者との聞き取り調査（現地調査：台北市郊外・台中市郊外および台南市郊外の小規模学校にて調査を行った。

(3) 2024 年 11 月-2025 年 1 月:展開段階b

調査で集めた資料や録画文字起こし・分析を行った。異なる国や地域のデータを比較し、共通点や相違点を明らかにした。また台湾における小規模学校の現状と課題を整理することを行った。

(4) 2025 年 2 月-3 月:発信段階

研究結果をまとめた論文を執筆し、2025 年 3 月研究科の『研究年報』第 73 号第 2 号に投稿予定があり、*Encyclopedia of Education Innovation* (Springer 社) という Book Project に投稿する準備も行っている。

研究成果

山村地域の小規模小学校の教員に対する政策と調査を通して、日本、台湾および中国における山村地域の小規模小学校の教員が共通な課題を直面していることが明らかになった。世界的な教員不足が途上国と先進国の共通課題になっている。教育不足問題が世界の教育質の向上に影響を与える。また、急速な少子化が進めている山村地域において、小学校規模が縮小すると同時に、学校の教員が複式学級の運営、地域との連携、外国人子どもへの対応および ICT による学習の推進などに関する様々な課題に直面し、これらの教員は、肉体的・精神的ストレスの原因となる過重労働に苦しんでいる。これらの課題を解決するために、日本、台湾および中国の中央政府と各レベルの自治体が小規模小学校の教員に対する育成の取組や教員の福祉の改善や働き改革に関する政策を通して、教員の質向上と教育の質の改善を目指そうとしたことが分かった。

今後の課題

本研究では、日本、台湾および中国における山村地域の小規模小学校の教員に関する政策や法律のレビューをし、三カ国の山村地域の小規模小学校の教員に対する政策の相違点をまとめた。また、日本、台湾および中国における山村地域の小規模小学校の教員が共通な課題を直面していることが明らかになった。今後、日本、台湾および中国における山村地域の小規模小学校の教員を研究対象としてこれらの教員の現状と課題を明らかにすることが必要である。また、山村地域の小規模小学校の教員が直面している共通な課題に対する解決のプロセスおよびその意味を解釈することも目指したい。

謝辞

(1) 調査にご協力いただいた台湾政治大学教育学院の関係者や訪問された台北、台中

および台南の小学校の校長および教員に感謝申し上げます。

(2) 本稿は「東北大学大学院教育学研究科先端教育研究実践センター2024年度プロジェクト研究助成」を受け実施した研究成果の一部である。研究を支援していただいた東北大学大学院教育学研究科先端教育研究実践センターに感謝申し上げます。